山形県スポーツ少年団

大空に翔る

令和８年３月発行
No.41

地区協議会だより

令和７年度山形県スポーツ少年団村山地区協議会指導者研修会
兼西村山地区スポーツ少年団指導者研修会（村山地区協議会）

公認スタートコーチ（ジュニア・ユース）
養成講習会（最上地区協議会）

第61回山形県スポーツ少年大会
兼令和７年度ジュニア・リーダースクール（置賜地区協議会）

アクティブ・チャイルド・プログラム（JSPO-ACP）
都道府県普及促進研修会（庄内地区協議会）

今年度から、全国スポーツ少年大会は『JAPAN GAMES JUNIOR & YOUTH』となり、競技別交流大会は『エンジョイ！スポーツフェスティバル』と名称変更された。さらに、大会レギュレーションとして①交流機会の充実、②出場機会の確保、③スポーツインティグリティの強化といった、スポーツ少年団活動の充実を目指した内容が示された。出来れば県の大会等でも取り入れて欲しいとされている。

また、部活動改革も実行会議の取りまとめが出され、今後の方向性として六年間の改革実行期間が示された。ジュニア期のスポーツ活動の方向性が示されたと感じる。益々、受け皿としてのスポーツ少年団への期待が高まっていると思う。

しかしながら、スポーツハラスメントも相変わらずマスコミを賑わしている。日本スポーツ協会の相談窓口への相談件数の約五割が小学生に関するものだという。残念でならない。

このように、今まさにスポーツ少年団を取り巻く環境が注目される中で、スポーツの『入口』にいる子ども達を取り巻く『大人（アントラージュ）』として、少年団創設以来の『理念』の再確認が必要になってきていると強く思う。折しも、冬季オリンピックが開催された。結果に一喜一憂されることなく、『Sport』について、さらに考えてみたいものである。

『Sport』とは

山形県スポーツ少年団
本部長
遠藤　啓一

発行／公益財団法人 山形県スポーツ協会 山形県スポーツ少年団 （山形市松山２－11－30 ☎(023)625－5750 http://www.yamagata-sports.or.jp/） 印刷／(株)大風印刷

令和七年度　山形県スポーツ少年団事業

第六十一回山形県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクール

山形県スポーツ少年団置賜地区協議会
会長　髙野　祐次

八月二日(土)から四日(月)まで、川西町農村環境改善センターを主会場として、山形県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクールが開催されました。スポーツ少年大会には、県内スポーツ少年団の小学生三十名、ジュニア・リーダースクールには中学生十六名が参加し、指導者やリーダー、スタッフの指導・サポートのもと、様々なプログラムに取り組みました。

今回のスポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクールでは、参加者の熱中症対策として、これまでの自然の家を主会場に実施していた野外活動を交えたプログラムから、冷房を完備する施設での活動中心のプログラムに再編成して実施しました。活動場所は川西町農村環境改善センターや川西町民総合体育館、宿泊はクラブハウス〝AIK〟、あいぱるを利用しました。

一日目【交流活動Ⅰ】では、「アイスブレイク」から始まり、参加者の緊張感を和らげながら仲間づくりを行いました。その後、少年大会では【交流活動Ⅱ】で「ACP」、【交流・体験活動Ⅰ】で「障がい者スポーツ」を体験しました。また、ジュニア・リーダースクールでは、【講義Ⅰ・Ⅱ】として「スポーツ少年団」や「リーダー」について学び、考えを深めることができました。

二日目【スポーツ活動】では、川西町民総合体育館で、川西町を代表するスポーツ「ユニホッケー」を行いました。暑さのため残念ながら外のコートではできませんでしたが、初めて体験するスポーツに最初は戸惑いながらも少しずつ上達していく様子がみられました。班対抗ゲームでは各チームが協力して作戦を考え、好プレーが続出するなど、会場は声援と歓声に包まれました。ゲーム中でのパス回しや中学生が小学生をサポートする姿など、チームワークと団結力が育まれていく姿が印象的でした。お昼は、【交流・体験活動Ⅲ】として飯豊少年自然の家で「マイ箸づくり」に挑戦しました。乾燥して硬くなった竹をカッターで削るのは難しい作業だったようですが、一人一人オリジナルの箸を作ることができました。自分の箸を使って食べた「流しそうめん」は思い出に残るひと時でした。午後からは【交流・体験学習Ⅱ】で「カローリング」「パックカール」に挑戦しました。二種目とも多くの団員が初めて体験するものでしたが、様々な生涯スポーツに触れる機会となり、スポーツの楽しさや仲間と協力する大切さを学ぶことができました。二日目の最後には【交流活動Ⅲ】で、県リーダー会が企画した複数種目のプログラムを行いました。前日から川西町で準備を進め、小・中学生に楽しく活動してもらえるように、参加者一人一人が活躍することができる内容を考え、班員の仲が深まるような取組みを行ってくれました。

最終日の三日目、ジュニア・リーダースクールでは、二日間の活動を四人一組で話し合い、リーダーとして大切なことを再確認する時間となりました。少年大会では【交流活動Ⅳ】「モルック」を体験し、三日間共に過ごした仲間と協力して活動しました。最後に三日間で感じたことや学んだこと等を自分の言葉でまとめ、全日程が無事終了しました。

今回のスポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクールを実施する中で、様々な課題が明らかになりました。一つ目は熱中症対策についてです。夏休み期間以外で開催することも考えられますが、小・中学生参加の事業としては時期的に極めて困難です。そのため夏開催の場合は冷房設備が整った施設の確保や施設間の移動等に苦労することが課題としてあげられます。二つ目は、各プログラムの設定についてです。内容の吟味や役割分担等、準備期間が限られた中での事業になるので必ずしも思うようにいかないことがありました。そして三つ目は、昨今の物価や人件費の高騰などで費用がかさむことです。それをすべて参加者に強いることは困難であり、対策を検討していくことが必要だということです。これらの課題を克服するために皆で知恵を出し合いながら次年度の事業に臨む必要があると感じました。

一方、今回のスポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクールには、県リーダー会から五名が参加してくれました。五名ともリーダーになって日が浅いようですが、良き指導者、そして良きお兄さんお姉さんとして、熱心に活動していただきました。これからが楽しみであり、今後益々のご活躍を期待しております。また、県内の自然の家など当該活動の拠点となる施設・設備も改善されるという話を聞いております。このような明るい話題も含めて、次年度の事業がより実りの多いものになるよう願っております。

山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会

山形県スポーツ少年団庄内地区協議会
会長　平賀振一郎

十一月十五日(土)に、鶴岡市の東京第一ホテル鶴岡を会場にして、令和七年度山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会が開催されました。本研修会には、県内各地から一三六名の参加があり、指導者や保護者等がそれぞれの立場で有意義な研修を行うことができました。

研修会に先立ち、令和七年度日本スポーツ少年団顕彰伝達式並びに山形県スポーツ少年団表彰式が行われました。受賞された三団体と十四名の指導者の皆様、誠におめでとうございます。今後とも、地域スポーツの発展と未来を背負う青少年の育成にご尽力くださいますようお願いいたします。

今年度の研修会のテーマは、「目指せグッドコーチ：自立型選手を育成するためのコミュニケーションスキルを獲得する！」で、講師に桐蔭横浜大学大学院スポーツ科学研究科教授の渋倉崇行氏をお招きしました。渋倉氏は、スタートコーチ（ジュニア・ユース）インストラクター再委嘱研修会をはじめ、数多くの研修会の講師を務められ、自らも野球選手として甲子園大会にも出場した経験があります。

研修会の前半は、渋倉先生からご講演いただきました。「四番、ピッチャー、渋倉崇行君」という司会者のユニークなコールで登場した渋倉氏は、まず初めにグッドコーチに求められる資質・能力とは何かを私たちに問いかけました。その答えは、

《思考・判断》
→スポーツの意義・価値、コーチングの理念・哲学等
《態度・行動》
→前向きな思考・行動、コミュニケーションスキル等
《知識・技能》
→共通するスポーツ科学、個々の現場別の専門知識等

であり、幅の広い総合的な領域で発揮される力＝「人間力」ということでありました。

次に、スポーツの意義についてのお話では、次の三つの成長にあるということを教えていただきました。

《精神的成長》
→楽しさ・喜び・自尊心・有能感・ライフスキル
《身体的成長》
→筋肉・骨格・体力・丈夫な体
《社会的成長》
→共同・思いやり・尊重・公正・仲間

また、勝利（勝つこと）については、勝利を目指すことは意欲的に取り組む上で大切なこととした上で、「勝利＝目的」ではなく、「勝利＝成長のための手段・きっかけ（人間形成の場を提供するもの）」というとらえ方をご教授いただきました。

最後に、コーチの役割を果たす上で重要なことの一つとして、コミュニケーションスキルについてお話をいただきました。コーチングの基本は、コミュニケーションスキルであり、指導者がしっかりと身に付けなければならないというご指摘がありました。

そのコミュニケーションスキルの中で、コーチにとってより大切なことは、話すことより聞くこと、また、話す内容より話し方というお話をいただきました。その根拠として、訓練されていない聞き手にとっては二〇％しか話が聞けていないこと。また、コミュニケーションの七〇％は非言語的なメッセージであることを挙げていました。

コミュニケーションの四つのプロセス（次の①～④）の中で、それぞれに次のような阻害要因があり、その阻害要因を解決していくことが大切であるというご指摘をいただきました。

①言葉にする
誤解を与える言葉の選択
→理解しやすい的確な言葉の選択
②発音する
不快の感情の表出
→期待の感情の表出
③聞く
聞かなくてもよいという姿勢
→深く理解したいという姿勢
④理解する
思い込みに基づく解釈
→選手理解に基づく解釈

研修会の後半は、ワークショップ形式の研修を行いました。自己紹介等を終えた後に、講演でのお話の中にあったコミュニケーションスキルを磨くためのトレーニングをグループごとに行いました。

相手の言葉をヒントにして、想像したものを当てたり絵を描いたりして、先入観にとらわれずに正しく伝わっているかを確かめることができました。参加者からは終始笑みがあふれ、楽しく充実した研修になりました。

二つの研修を合わせて三時間にも及ぶ長い研修会になりましたが、コミュニケーションスキルの大切さを理解し、グッドコーチをめざそうとする参加者の意気込みがあふれる研修会となりました。

単位団紹介

西郷ミニバスケットボールスポーツ少年団（村山市）

代表者　斎藤　武志

西郷ミニバスケットボールスポーツ少年団は、西郷小、楯岡小の児童を中心に村山市内で活動しており、最近は地区外から参加する団員も増えてきました。チームで大事にしているのが、団員、指導者、保護者の関係を正三角形になるようにするということです。三者がワンチームとなり、その年の目標に向かって日々練習しています。

男子はここ数年団員不足に悩み、今年は九人からのスタートとかなり厳しい幕開けでした。そこで今年は『楽しい活動』をモットーにバスケットボールはもちろん、季節のイベントなどプレー以外のことも、楽しむことを第一に活動しました。少しずつ人数も増え、子ども達が楽しいと思えるような環境を作ることで、自然と人が集まるということを実感しています。

女子は現在七校から集まった十六人で活動し、新潟・福島遠征、県内大会に参加しました。仲間を信じて挑戦することを胸に、個々の個性を大切にしながら、流した汗と涙が大きな虹となって光り輝くことができた一年でした。

今後も、ミニバスケットボールを通じて、子ども達の心と体の大きな成長に繋げられるよう活動していきたいと思います。

真室川スキースポーツ少年団（真室川町）

代表者　齊藤　優大

真室川スキースポーツ少年団は、真室川小学校と真室川あさひ小学校の児童計九名が所属し、週に二回活動しています。私たちが専門とするのは、雪上のマラソンとも称される「クロスカントリースキー」です。これはテレビでよく見られるアルペンやジャンプとは異なる種目で、競技を通じて情熱を注げるスポーツです。

日頃の活動は年間を通して工夫が凝らされており、夏季には陸上トレーニングやローラースキー、登山などを実施しています。さらに、県内各地で行われるマラソン大会等にも積極的に参加しています。冬季になると、県内だけでなく県外のレースにも挑戦しており、スキーを通じて全国各地を巡る貴重な経験を積むことができます。

私たちは、活動を通じて子ども達にスポーツの楽しさを伝え、人としての成長を遂げてほしいと願っています。クロスカントリーが将来的に「やってよかった」と思えるかどうかは分かりませんが、今、夢に向かって全力で物事に取り組む姿勢は、今後の人生における確かな力に絶対になると信じています。

子ども達が夢に向かって懸命に頑張る姿をより多くの人に届けられるよう、今後も活動を継続して参ります。

長井市少林寺拳法スポーツ少年団（長井市）

代表者　横澤　芳一

長井市少林寺拳法スポーツ少年団は、昭和五十六年に設立以来、今年で四十五年目を迎えました。毎週火曜日と土曜日の週二回、市の武道館で活動を行っています。創設当初はカンフーブームもあり団員数も八十名を数える時がありました。近年は時の流れと少子化に伴い団員数も減少しています。現在の団員は小学生五名、中学生二名の計七名で、人数は減ってきましたが、創設者の思いを現在も引き継ぎながら、子供の個性と向き合った活動ができるように取り組んでいます。

本スポーツ少年団は、少林寺拳法の教えと技術を通じて、自分を大切にし、周りの人を大切にする心を養うことを目指しています。そして、基本的な社会のルールを身につけリーダーシップもとることができるように、少林寺拳法の教育システムに沿って指導することを心掛けています。少林寺拳法の大会や試合などの機会は少ないですが、昨年は、全国少林寺拳法中学生大会と少林寺拳法全国大会にまで出場することができました。一つのことだけに取り組むのではなく、日々の活動の中で、ゲームを取り入れたり、芋煮会や活動発表会などの行事も行ったりしながら、スポーツを通じて楽しさや仲間とのつながりを感じる活動となるように取り組んでいます。

FC余目スポーツ少年団（庄内町）

代表者　齋藤　聡

FC余目は二〇一六年に発足し、今年度でちょうど十年になります。それまで各小学校にあった団が統合し誕生しました。現在の団員数は保育園・幼稚園の年中から六年生まで一一二名です。令和七年度は中学生年代のチームも発足したため、合計すると約一五〇名になります。近年は町外からの入団者も増えてきています。

「楽しくなければサッカーじゃない」を子ども達も指導者も合い言葉にして活動しています。サッカーは個人のテクニックとチーム戦術それぞれの面白さを追求していくスポーツです。その中で目標を持って取り組むことの大切さや仲間と共に成長する喜びをつかんでほしいと願っています。

団員が多いことで、練習場所や指導者の確保が課題となっていますが、保護者会を始め、多くの皆様にご協力いただきながら運営しています。通常のサッカー活動はもちろんですが、それに加えて各年代カテゴリーが交流できるイベントを開催したり、社会貢献としてボランティア活動を行ったり、子ども達の全発達を意図した取り組みも行っています。

今後も子ども達の「サッカーが好き」を一番にして活動して参ります。

団員の夢

「バスケを通して学んだこと」

ホワイトフォックス
スポーツ少年団（尾花沢市）
佐藤晴斗

僕は小学三年生の時にバスケを始めました。最初は走るのも一番遅く、ドリブルのやり方もバスケのルールも知らず、シュートもリングに届かなかったです。それでもコーチ達が丁寧に教えてくれ、先輩方のバスケに対する姿勢を見てもっとがんばりたいと思いました。毎日ハンドリングなどの自主練を続け、少しずつ自信を持てるようになりバスケが楽しいと思えるようになりました。

六年生になりみんなと決めた目標が県大会出場でしたが、そこまでたどり着けなかったです。ですが、バスケを通して仲間の大切さ、思いやり、目標に向かって努力することが大事だということを学びました。

西尾コーチ、三浦コーチ、高橋コーチ、秋葉コーチ、そして最高の仲間と出会えてぼくは幸せです。中学でも努力を続けて頑張ります。

「バレーボールを通して」

とざわ
スポーツ少年団（戸沢村）
西嶋志織

私がバレーボールを始めたのは小学三年生の後半です。楽しそうだという好奇心が入団のきっかけでした。

当時、先輩たちはレベルの高い練習をしていました。厳しい練習にもかかわらず、なぜか楽しそうに見えたことが強く心に残っています。先輩たちは東北大会に出場し、白熱した試合の様子を見ていた私は、「自分も試合に出て、先輩たちのように強くなりたい。」と少しずつ思うようになりました。それから、必ずサーブを入れることを意識しながら一生懸命練習しました。

現在は、キャプテンとしてチームを引っ張る立場になりました。始めのうちは、なかなか声が出ず、怒られてばかりでしたが、負けずに率先して声を出し、チームを盛り上げるよう努力しました。バレーボールはチームプレーのスポーツなので、声をかけあい、みんなとコミュニケーションをとることの大切さを学びました。

六年生になってからは、思ったような成績は収められませんでしたが、自分なりにはベストを出せたと思います。

中等部に行っても、大好きなバレーボールを続けて、好成績を収められるように努力していきたいです。

「陸上競技を通して夢を見つけたい」

かわにし陸上
スポーツ少年団（川西町）
吉田栞

私は、小学校五年生の時に陸上競技を始めました。もともと走るのが好きで、スポーツ少年団に興味をもち始めたころに友達が誘ってくれたことがきっかけです。

種目は一〇〇mとリレーをしています。私は、この陸上競技のスポーツ少年団で、一致団結することの大切さを学びました。リレーでは、全員で協力し、心を一つにすることでバトンがスムーズにつながり、達成感を味わうことができました。また大会では、他の団体に迷惑をかけないよう、まとまって行動したり、全員で声を合わせて応援したりするなど、一丸となって取り組むことへの意識が高まりました。

私は、陸上競技やスポーツ少年団で学んだ一致団結することだけでなく、礼儀や楽しむ心など自分自身で学んだことを人に伝えていきたいという目標があります。そして、中学生になっても陸上競技を続けたいと思っています。常に自己ベスト更新を目指し、支えてくれる人への感謝を忘れずに頑張っていきたいです。将来の選択肢を広げながら、これからの競技生活を通して将来の夢を見つけたいです。

「仲間と過ごした六年間」

遊佐野球
スポーツ少年団（遊佐町）
佐々木皓駕

僕が野球を始めたのは、一年生からです。始めた理由は、お父さんがやっているのを見て、楽しそうだなと思ったからです。初めて試合に出たのは、三年生の時でした。打席に入り緊張していたけれど、思いっきりバットを振ると、ランニングホームランを打つことができました。僕はもう一度打つために、よりたくさん練習をするようになりました。

そして六年生になり、僕はキャプテンになりました。初めの頃はチーム全体にまとまりがなく、なかなか指示が通らず、どうしたらいいかとても悩みました。しかし、練習や試合などを重ねていくにつれてチームワークも強まり、大会で上位に残ることができました。なにより僕の支えになったのは、同じ六年生がどれだけ苦しい場面でも声をかけてくれたことです。僕はこのチームでたくさんのことを学ぶことができました。仲間を信じ、お互いのことを支えながらプレーすること、そして最後まで何があっても諦めないということです。このことを僕は中学校に行っても忘れず、小学校で学んだことを生かし、仲間と野球を楽しみ、更に上を目指してがんばっていきたいと思います。

●JAPAN GAMES JUNIOR & YOUTH
「新たな経験と学び」

城北卓球スポーツ少年団（鶴岡市）
伊藤愛生

令和五年に県、そして令和六年に東北スポーツ少年大会を経験させてもらい、次は全国だ、どんな友達と出会えるのだろうとワクワクしていました。大会中はウォーキングフットボールなどのスポーツ活動、唐津城見学や有田焼絵付けの文化学習活動、地元チームとのスポーツ交歓交流活動をしました。特に有田焼絵付けでは、色の乗り具合が心配でしたが、それと同時に仕上がりが楽しみにもなりました。佐賀の伝統文化に触れ、スポーツやレクリエーションを通し、新しい仲間と交流を深め、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、改めてスポーツはルールがあるからこそ楽しいのだと実感しました。生活面では、方言の違いで言葉がわからないこともあり新鮮でした。長い時間を共に過ごし、お互いの個性を認め合い、協調し、成長できたと思います。普段過ごしているだけでは得ることのできない貴重な経験や学びを、これからの僕の生活に活かしていきたいです。最後に、僕たちを歓迎し、大会を企画してくれた佐賀県のスタッフの皆さん、出会うことができた友達、六日間引率してくれた先生、どうもありがとうございました。

●東北ブロックスポーツ少年大会
「東北ブロックスポーツ少年大会に参加して」

Bon・クラーズスポーツ少年団（寒河江市）
鴨田陽輝

僕は今回の東北ブロックスポーツ少年大会を通して、みんなで協力することの大切さを学びました。特にそれを感じた場面が二つあります。

一つ目は、「いかだ作り」です。

班に分かれて竹とタイヤを使い、いかだを作りました。その作ったいかだで海を回った時、落ちてしまわないか少し不安な気持ちになったのを覚えています。いかだを作るにはとても難しい作業もあったけど、班のみんなと協力して作ることができたし、終わった後はすごく達成感がありました。その後は同じスポ少の人と水遊びをして楽しかったです。

二つ目は、「カレー作り」です。

学校でもカレー作りをした事があったので、作り方はわかっていましたが、思ったよりも簡単に作ることができました。それは友達と分担しながら協力して活動することができたおかげだと思います。

この合宿で初めて会う人とも仲良くなって活動することができました。僕は、今回の東北ブロックスポーツ少年大会を通して学んだことを学校生活や日常生活に活かしていきたいと思います。

●北海道・東北ブロックリーダー研究大会
●全国リーダー連絡会
「北海道東北ブロックリーダー研究会・全国リーダー研究会に参加して」

山形県スポーツ少年団指導育成委員会（リーダー育成部会）
委員　柴崎美枝

十一月一日～三日令和七年度北海道・東北ブロックリーダー研究大会ならびに十一月十五日全国スポーツ少年団リーダー連絡会に、リーダー育成担当指導者として参加しました。

北海道・東北ブロックリーダー研究大会では、各道県のリーダーや指導者が集い、各県のリーダー会の報告、アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）、意見交換を通して、リーダー会の現状や課題について学びを深めました。県によっては、素晴らしい取り組みや、リーダー自身が主体的に活動を企画・運営している事例も紹介され、山形県リーダー会においても、大いに参考となる内容でした。また、若い世代のリーダーが自らの言葉で思いや考えを発信する姿が印象的であり、次世代育成の重要性を改めて感じました。

続いて参加した全国スポーツ少年団リーダー連絡会では、全国各地から集まったリーダー同士が交流し、より広い視点でスポーツ少年団のリーダー、さらにはリーダー会の役割や今後の在り方について意見を交わしました。地域や規模の違いはあっても、子ども達の健全育成を第一に考える思いは共通しており、今後のリーダー育成はもちろんのこと、指導者・リーダーが連携しながら活動を支えていくことの大切さを強く実感しました。

今回、リーダー育成担当指導者として参加したことで、リーダーが安心して学び、仲間とつながり、挑戦できる環境を整えることが、指導者の大切な役割であると感じました。山形県は地域ごとのつながりが強い一方で、活動の継続や人材育成に工夫が求められる地域でもあります。本研究大会および連絡会で得た学びを、山形県の地域性や実情を踏まえながら、今後のスポーツ少年団活動やリーダー育成に生かしていきたいと考えています。

山形県リーダー会紹介

スポーツ少年団は、小学生の活動というイメージを持たれがちですが、小学六年生での区切りは「卒業（卒団）」ではありません。中学生以降も、スポーツや仲間とのつながりを続けながら成長できる場として、リーダー会の活動があります。

中学生になり、ジュニア・リーダースクールを受講することで「リーダー」として活動することができます。さらに経験を重ね、高校生になるとシニア・リーダースクールを受講し、シニア・リーダーになれます。また、活動実績を積むことで、日本スポーツ少年団事業のひとつの日独スポーツ少年団同時交流に日本団の一員として派遣されるチャンスもあり、国際的な交流を経験できる可能性もあります。

山形県リーダー会は、中学生から加入することができ、スポーツ種目の枠を超え、異なる年齢の仲間が集まって活動しています。学校や部活動とは違う環境の中で、さまざまな価値観に触れ、幅広い人間関係を築けることも大きな魅力です。

リーダーは、指導者と団員をつなぐパイプ役であり、時にはお兄さん・お姉さん的な立場として団員に寄り添います。年齢の近い存在だからこそ、子ども達にとって話しやすく、安心して頼れる存在となっています。

具体的な活動としては、県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクールの運営補助をはじめ、各市町村の結団式など各種行事のお手伝いや、アクティブ・チャイルド・プログラム（JSPO-ACP）都道府県普及促進研修会の補助も行っています。また、年に数回の山形県リーダー会研修会のほか、北海道・東北ブロックリーダー研究大会、全国スポーツ少年団リーダー連絡会などにも参加し、知識や経験を深める機会を得ています。

リーダー会の活動は、学校や部活動では得られない異年齢の仲間、学びや経験に満ちた、とても貴重な場所です。仲間と共に考え、行動し、支え合いながら成長するこの経験は、将来にわたって大きな財産となります。とはいえ、団員減少、リーダー会の認知度が低く、リーダーの確保が難しくなってきています。これは山形県に限ったことではなく、全国的な課題となっています。

リーダーの存在は、スポーツ少年団活動を円滑に進めるうえで欠かせないものであり、子ども達にとっても身近な目標や憧れとなる大切な存在です。同時に指導者のタマゴたち。だからこそ、スポーツ少年団は小学生で終わるものではなく、その先にリーダーとして関わり続ける道があることを、多くの方に知っていただきたいです。リーダー会は、子ども達の成長を支えると同時に、次の世代へと活動をつないでいく重要な役割を担っています。

興味のある方は、各単位団の指導者、または山形県スポーツ少年団事務局までお問い合わせください。一緒にリーダーとして活動してくれることを、山形県リーダー会一同楽しみに待っています。

山形県スポーツ少年団指導育成委員会
（リーダー育成部会）
委員　柴崎美枝

市町村の動き

河北町スポーツ少年団本部事務局

昭和五十五年に設立された河北町スポーツ少年団本部は、現在、九つの単位団、団員二一五人、指導者・スタッフ六十五人で構成されています。

本部設立四十六年目を迎えた今年度も、「スポーツ少年団の理念」により、五月の合同結団式から、日々活動に励んでいます。その中で、九月からは町の広報誌にて「夢をつかめ！河北の若きアスリートたち」と題して、各単位団の活動や大会での活躍を紹介しております。

また、指導者の資質向上にも注力しており、一月には本町を会場に「村山地区協議会指導者研修会兼西村山地区指導者研修会」を開催しました。

昨今、少子化による団員減少や部活動改革など、スポーツを取り巻く環境は大きく変わろうとしておりますが、子ども達がより良い環境で生涯にわたりスポーツに親しみ、心身ともに健やかな成長ができるよう、今後とも事務局としてさらなる環境整備に努めてまいります。

県の動き

表彰

○日本スポーツ少年団顕彰

〈市区町村表彰〉

山形市スポーツ少年団

〈表彰指導者〉

髙橋喜久雄（山形市）、伊藤好之（新庄市）、横澤芳一（長井市）、伊藤恭子（鶴岡市）

〈退任者感謝状〉

寒河江寿樹（川西町）

○山形県スポーツ少年団表彰受賞者

〈功労者〉

渡邉正人（寒河江市）、杉山欣伸（東根市）、金田和幸（東根市）、三浦清（東根市）、髙橋章（金山町）、佐藤智昭（飯豊町）、井上昇（鶴岡市）、成澤素直（鶴岡市）、佐藤久樹（鶴岡市）

〈優良団〉

Ｂｏｎ・クラーズ（寒河江市）、城北わくわく（鶴岡市）

各種事業

○ＪＳＰＯ公認スタートコーチ（ジュニア・ユース）養成講習会

五コース開催　二六六名受講

○ＪＳＰＯ公認スポーツ指導者資格更新研修

四会場開催　一七一名受講

○山形県指導者・育成母集団研修会

十一月十五日　東京第一ホテル鶴岡　一三六名参加

○アクティブ・チャイルド・プログラム都道府県普及促進研修会

三会場開催　八十七名参加

○山形県スポーツ少年大会

八月二日～四日　川西町農村環境改善センター　三十名参加

○ジュニア・リーダースクール

八月二日～四日　川西町農村環境改善センター　十六名受講

○スタートコーチ（ジュニア・ユース）インストラクター養成講習会

九月二十七日～二十八日　東京都　二名受講

○スタートコーチ（ジュニア・ユース）インストラクター再委嘱研修会

十月五日　東京都　十名参加

○アクティブ・チャイルド・プログラム講師講習会

八月二十三日～二十四日　東京都　二名受講

○アクティブ・チャイルド・プログラム講師講習会受講修了者ブラッシュアップセミナー

七月十二日　東京都　四名参加

○ジュニアスポーツフォーラム

六月十五日　東京都　十二名参加

○シニア・リーダースクール

八月六日～九日　静岡県　三名受講

○全国リーダー連絡会

十一月十五日　東京都

〈指導者〉柴崎美枝（寒河江市）

〈リーダー〉松田陽色、沖津心暖（寒河江市）

○北海道・東北ブロックリーダー研究大会

十一月一日～三日　北海道

〈指導者〉柴崎美枝（寒河江市）

〈リーダー〉沖津心暖、小角月乃、鈴木琉之進、松田陽色、光位湊（寒河江市）

○ＪＡＰＡＮ ＧＡＭＥＳ ＪＵＮＩＯＲ ＆ ＹＯＵＴＨ

七月三十一日～八月三日　佐賀県

〈指導者〉原田満（鶴岡市）

〈団員〉伊藤愛生、白幡徹評（鶴岡市）

○東北ブロックスポーツ少年大会

七月二十五日～二十七日　宮城県

〈指導者〉柴崎美枝（寒河江市）

〈団員〉川原颯真、鴨田陽輝、大沼悠輝、村山縁（寒河江市）、佐藤侑茉、大川健、田中蒼大（鶴岡市）

○エンジョイ！スポーツフェスティバル

【バレーボール】

十二月二十五日～二十八日　京都府

〈参加団〉高松アタッカーズ（寒河江市）

《東北ブロック》

【軟式野球】

七月五日　宮城県

〈参加団〉大郷ベースボールクラブ（山形市）

【柔道】

十一月二十九日～三十日　福島県

〈参加団〉髙橋道場、大道館（山形市）

○山形県少年少女スポーツ交流大会

十月五日主会期　県内各地区

三七八七名参加

●ＪＳＰＯ公認スポーツ指導者資格の更新について

「スタートコーチ（ジュニア・ユース）」や「スポーツコーチングリーダー」などのＪＳＰＯ公認スポーツ指導者資格の有効期間は、資格登録後四年間です。資格を更新するためには、資格有効期限の六か月前までに、日本スポーツ協会が定める研修会を最低一回受けることが必要です。研修受講期限までに、更新研修を受講しなかった指導者へは更新登録案内が送付されませんのでご注意ください。

有効期限		更新研修受講期限
2026年	3月31日の方	2025年9月30日
	9月30日の方	2026年3月31日
2027年	3月31日の方	2026年9月30日
	9月30日の方	2027年3月31日
2028年	3月31日の方	2027年9月30日
	9月30日の方	2028年3月31日

●山形県スポーツ少年団で開催している更新研修

・山形県指導者・育成母集団研修会

・アクティブ・チャイルド・プログラム都道府県普及促進研修会